「現代のジャーナリズムと石橋湛山」の刊行にあたって

本ブックレットは、昨年１２月１７日に立正大学品川キャンパスで開催された第四回石橋湛山研究学会（会長・増田弘立正大学特任教授）の第二部シンポジウムにおける討論に加筆訂正をしたものです（第１部研究発表の概要は、『自由思想』第１４４号に掲載）。同シンポジウムは、当日の午後４時過ぎから午後６時前までの約２時間、ＮＨＫ解説副委員長の島田敏男氏による司会で、一般財団法人日本再建イニシアティブ理事長（元朝日新聞主筆）の船橋洋一氏と東京大学大学院法学政治学研究科教授の藤原帰一氏によるパネルディスカッションの形式で進められました。

国際協調とリベラリズムが問われる現在の状況、動乱期におけるジャーナリスト・湛山の位置づけ、国際協調の重要性とポピュリズム・ナショナリズムのコントロール、現在のジャーナリズムは湛山から何を学ぶかなどを柱として、熱心な議論が展開されました。本論を読まれれば理解をされる通り、湛山を一つの切り口としていますが、内容はそれを超えて、ジャーナリズムのあり方・本質を問う議論となっています。

当財団としては、本シンポジウムの濃い内容を活字の形で残し、研究学会に参加されなかった関係者はもちろんのこと、広くジャーナリズムに興味を持たれている人々に、この議論を知っていただきたいと思った次第です。過去、現在そして将来、ジャーナリズムに関係する方々に、ぜひ目を通していただき、建設的な議論がさらに広がることを期待しています。

船橋様、藤原様、島田様には、研究学会の数ヶ月前から、お忙しい中、討論の構成について何度か摺り合わせの時間をとっていただきました。また、本ブックレット作成では、再度お時間をいただき、チェックをお願いしました。また、研究学会当日のシンポジウムの円滑な運営については、石橋湛山研究学会世話人の皆様のご尽力に負うところが少なくありません。改めて関係各位に厚く御礼を申し上げます。

２０１７年１２月１６日（土曜日）には第五回研究学会が、同じ立正大学品川キャンパスで予定されています。今回にも増して熱の入った研究発表とシンポジウムになると考えられますので、興味を持たれた方は、是非とも足を運んでいただきたいと思っています。

２０１７年２月

一般財団法人石橋湛山記念財団代表理事　　石橋　省三